

ウトウパラデーヴァの
『シヴァストートラーヴァリー』からの詩節

第6節

अनन्तानन्दसिन्धोस्ते नाथ तत्त्वं विदन्ति ते ।
तादृशा एव ये सान्द्रभक्त्याऽऽनन्दरसाप्लुताः ॥

anantānandasindhoste nātha tattvaṁ vidanti te ।
tādṛśā eva ye sāndrabhaktyā "nandārasaplutāḥ ॥

燃え盛る献身の喜びの中に
没頭する者のみが、
おお、神よ、
あなたの無限の至福の大海の本質を知る。

第7節

त्वमेवात्मेश सर्वस्य सर्वश्चात्मनि रागवान् ।
इति स्वभावसिद्धां त्वद्भक्तिं जानञ्जयेज्जनः ॥

tvamevātmeśa sarvasya sarvaścātmani rāgavān ।
iti svabhāvasiddhāṁ tvadbhaktim jānañjayejjanah ॥

あなただけが、おお、神よ、すべてのものの大いなる自己である。
そして誰もが自然に自分自身の大いなる自己を愛する。
ゆえにその献身がすべてのものに内在していることを知る者は
勝利を得る。

第8節

नाथ वेद्यक्षये केन न दृश्योऽस्येककः स्थितः ।
वेद्यवेदकसंक्षोभेष्यसि भक्तैः सुदर्शनः ॥

nātha vedyakṣaye kena na dṛśyo 'syekakaḥ sthitaḥ ।
vedyavedakasamkṣobhepyasi bhaktaiḥ sudarśanaḥ ॥

神よ！深い瞑想の境地によって
客観的世界が消滅する時、
あなただけがそこにいる——
そしてその時に、誰があなたを見ないだろうか。
しかし、知る者と知られる者という
区別の境地にあっても、
あなたは信奉者にはたやすく認められる。

第9節

अनन्तानन्दसरसी देवी प्रियतमा यथा ।
अवियुक्तास्ति ते तद्वदेका त्वद्भक्तिरस्तु मे ॥

anantānandasarasī devī priyatamā yathā ।
aviyuktāsti te tadvadekā tvadbhaktirastu me ॥

ちょうど、あなたの最愛で、至福の無限の泉である
デーヴィーは、
あなたから切り離せないのと同じように、
あなたの献身だけは
私から切り離されませんように。

Shivastotravali, 1.6–9; trans. Constantina Rhodes Bailly, *Shaiva Devotional Songs of Kashmir: A Translation and Study of Utpaladeva's Shivastotravali* (Albany, NY: SUNY, 1987), p. 30.

10 世紀に生きたカシミール・シャイヴァイトの賢人のウトゥパラデーヴァは、尊敬された哲学者であると同時にシヴァ神に対する限りない愛を持つ恍惚(こうこつ)の存在でした。彼の『シヴァストラーヴァリー』の中で、この偉大な賢人は、彼のバクティ、すなわち献身的な愛を、今日においてもカシミール地方で歌われている一連のサンスクリット語による賛美の歌を通して表現しました。

最初の歌、「献身の喜び」からのこの詩節で、ウトゥパラデーヴァは、私たち自身の大いなる自己について体験する愛はシヴァ神の本質そのものであり、なぜなら神のみがすべてのものの大いなる自己であるから、と私たちに伝えています。神のすべてを包み込む無条件の愛に対する深い認識の中で、私たちは存在するすべてを、献身的な愛の無限の至福で満たされたものとして体験します。

